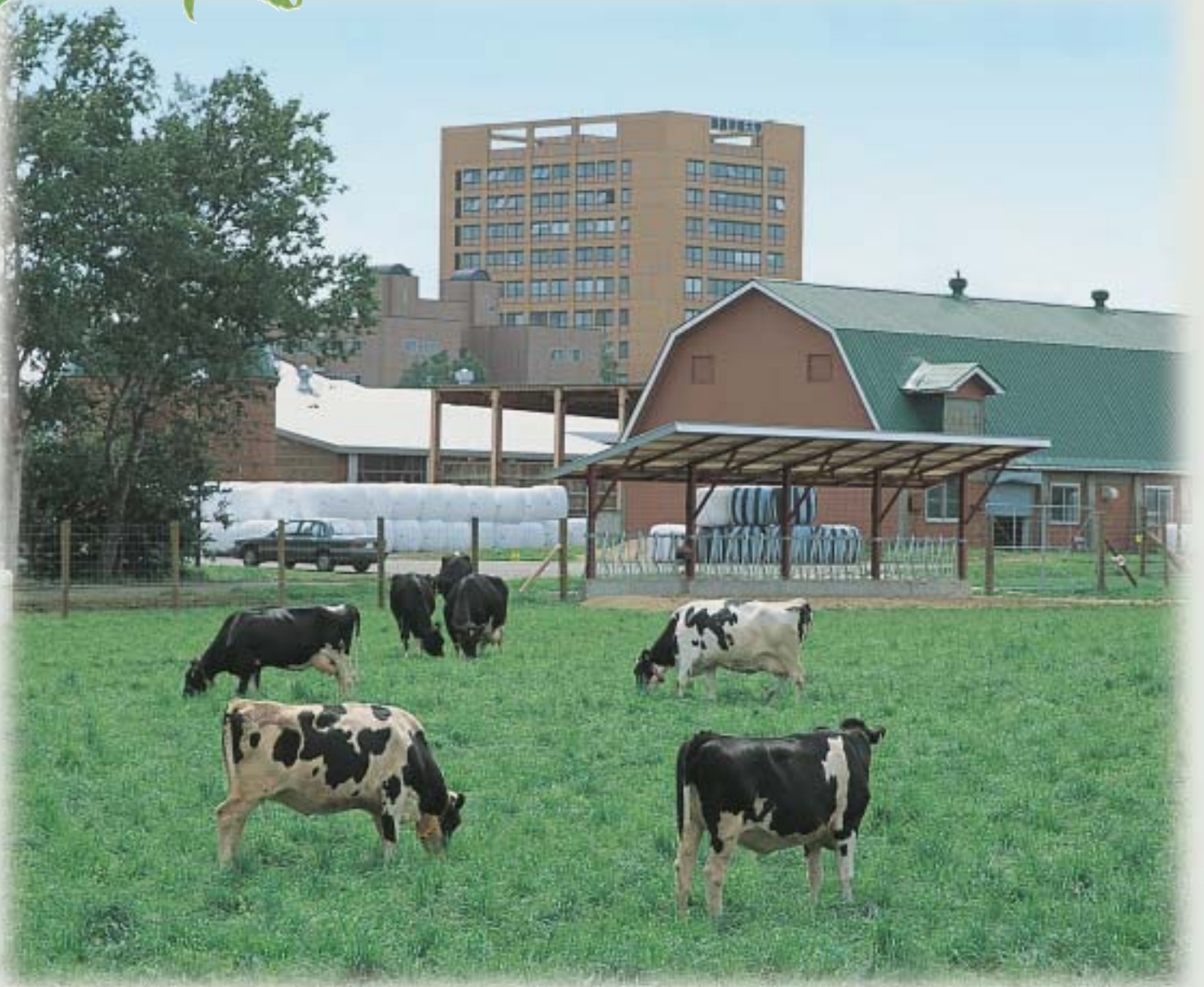


研養学園在り

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

国道12号線沿いで始まった乾乳牛の放牧

Vol. 99
2003.10.15

聖句

「主はこう言われる。バビロンに70年が満ちたなら、私はあなたがたを顧みる。私は恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。私は、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている。それは平和の計画であって、・・・将来と希望を与えるものである。」

(エレミヤ書 29章10-11節)

就任あいさつ



創立70周年を迎えて

理事長

平尾 和義

● 感謝をこめて

本年酪農学園は創立70周年を迎えることができました。

1933(昭和8)年10月、酪農による北方寒地農業確立の理想に燃えた創立者たちの実学に始まる教育は、戦中、戦後の激動の時代を経て、初志を失うことなく、時代の変化に対応し充実発展を遂げ、多くの有為な人材を世に送り出してきました。キリスト教による「三愛精神」をもって人格を陶冶し、「実学」によって「健土健民」の実現を標榜する創立者の建学の精神、教育理念に基づく教育は、最も特色ある、全国的にも類のない教育機関として各界から高い評価を受ける伝統と実力を持つに至りました。しかしながら、学園70年の歩みは決して平坦なものではなく、そこには私学なるが故の幾多の試練と苦難に満ちた年月があり、現在の学園は先人たちの血と汗が蓄積した労苦の賜物と、感謝に堪えません。

あわせて、陰になり日向になりご支援とご協力を惜しまれなかったご父母、卒業生、関係省庁・団体、大学・高等学校・中学校、取引業者など多くの関係皆さまに厚くお礼申し上げます。

● 伝統の再確認と継承

70年を経た今日、学園の現在の姿は建学の精神を基に先人から受け継がれた思想や精神の結実です。私たちは、先人の築いてきた輝かしい伝統を21世紀に継承発展させる義務があります。学園70年のこれまでの歴史、また社会の構造改革や国全体の教育見直しの大きな流れの中で、創立者たちが植え付け、先輩役職員、学生・生徒たちが時代の変化に応じて創造的に変革してきた学園固有の価値をあらためて認識し、さらにその上加えて今の時代を見極めながら伝統の価値をどのように創造的に実現するかは、70年を迎えた学園の課題です。伝統は単に形式的なものではなく、初めに創造されたものが再び創造されるところに歴史があり、これが伝統を生かし得る唯一の道といわれるように、私たちの身に付いた伝統は創造を通してのみ蘇ることができると考えています。

● 新たな伝統の創出に向かって

少子化が進んで受験人口が減少し、大幅な欠員を生じた学校が

少なくない現状で、明確な理念と個性を持つ学園の存在は今後ますます重要なものとなっていくと思われま。しかしながら瞬時の緩みや遅滞が学校の存立を危うくすることは間違いなく、私学の運営には大変厳しいものがあります。学園を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予想されますが、むしろそれをチャンスととらえ逆転の発想に立ち、本学の教育理念、目的をあらためて共有し、将来に向かって役職員・関係者が心を合わせ一致協力して困難に立ち向かう覚悟を新たにする必要があります。

私たちは、将来に向けての基本構想を多角的視野から知恵を集めて調査、研究し、さまざまなシミュレーションに基づき検討しています。教育の原点に立ち、学園教育の特色、独自性、教育力を一層高め、学生・生徒と教職員を支え、一人ひとりが持てる力を十分発揮できる環境、新たな学園づくりを目指し不断の努力をする決意です。これまで以上に、ご指導、ご鞭撻くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、ご多忙の中ご臨席を賜りました皆さまのご清祥を心から祈念してあいさつに代えさせていただきます。

キャンパスレポート



韓国・国立韓京大学校と 学術交流協定締結

酪農学園大学は7月29日、韓国の国立韓京大学校(李 元雨総長)と学術交流協定を締結し、本学の本館において調印式が行われました。

国立韓京大学校とは1994年10月に最初の学術協定を締結しており(当時平尾和義学長)、今回は再協定となります。94年の協定締結以来、学術交流としてアジア酪農会議の開催、学位授与、また人的交流として韓京大学校の学生等が毎年1回程度、本学を見学訪問するなど盛んに交流が行われてきました。

調印式であいさつに立った大谷俊昭学長は「1994年の締結以来、お互いにいろいろな面で変化し、今回の締結は従来以上に大きな意味を持つ。韓京大学校は本学にはない工学系の体制がしかれているが、近年、農業問題、特に食品の問題が叫ばれており、食品の絶対的な生産体制に視野を広げなければ、農業問題そのものの解決にはならない。その点で、工学系の学問がいろいろな面で有益な示唆を与えてくれる。本学には獣医・環境システム学部があり、お互いにない部分を補い合う交流にしたい」と述べ、今回の学術協定締結に大きな期待を示しました。

今後、同協定に基づき①学術資料、刊行物および情報等の相互提供②教員と学生による相互



交流事業の促進③共同研究④セミナーや学術会議などの学術行事の開催等を行っていきます。

同窓生から最年少28歳 議員誕生

今年4月に行われた統一地方選挙で、下川町議会議員に本学食品流通学科第1期生(1997年卒)の南邦彦さんが、28歳という若さで初当選しました。

南さんは在学中、第27代酪農学園大学応援団長、第26代北海道学生応援団連合長を務め、リーダーシップを発揮していました。卒業後に下川町に移り住み、2000年に食肉加工技術取得のためにオーストラリアへ。その後「有限会社北・北海道特産品販売」を設立し、2002年には森林浴とマッサージのお店「フォレスト」(札幌



市)、「ファーマーズカフェ」(名寄市)を開業するなど、若き起業家として活躍していました。

南さんの選挙活動はまさに「手作り」。後援会や選挙事務所を持たず、自分ひとりで行ってきました。パソコンでポスターを作り、自ら掲示板への張り出しを行い、街頭演説はビールの空き箱の上に立ち、選挙カーの代わりに自転車とハンドマイクで遊説という独自の選挙活動を展開。大勢のボランティアの若者が集い、手作りの横断幕などを作って南さんを応援した結果、見事当選しました。

主な政策は、①『地元農産物を地元で料理・地元で食べる』飲食店・学校給食への仕組作り②空店舗などを利用して若者・学生・女性の起業・事業・職業訓練の芽を育む機会・場所作り③地域活動へより一層参加し、小さな声を聞き、政策の立案、一般質問を通じた具体的な提案で、今後の議員としての活躍が期待されます。

「元氣! ミルク大学」に 小学生40人が生き生き と参加

北海道牛乳普及協会、北海道農畜産物需要拡大推進本部、ホクレンが主催する「元氣! ミルク大学」が8月5日～8日の4日間、酪農学園大学で開催されました。

北海道の牛乳や酪農への理解

を深めてもらう目的で始められ、今年で7回目を迎えたこのイベントには、道内の小学5～6年生40人(男女各20人ずつ)が参加。オリエンテーションなどの行事の後、「ミルクについて考える」をはじめとした5つの講座に臨み、みんな生き生きとした様子で搾乳や乳製品製造などを体験学習し、発表を行いました。

初日の入学式では、枳穀勝久北海道牛乳普及協会会長が「第1回目の卒業生は現在高校3年生になり、来年は大学生です。みなさんも将来チームリーダー(本学学生)になるかもしれませんね。「酪農王国」北海道の牛乳や酪農についてたくさん学んでください」とあいさつ。また、大谷俊昭学長は「酪農学園大学は健康な土があってこそ健康な人間が生まれるという考え方を持って酪農や環境などを総合的に研究しています。生物の体温を感じ、牛乳の素晴らしい力を知り、良い思い出を作ってください」と子供たちを激励しました。

最終日に行われた卒業式では大谷学長から小さな大学生一人ひとりに卒業証書が、また枳穀会長から「ミルク大使」の任命状が渡されました。子供たちは「搾乳は難しかった」「料理をして食べたのが思い出になった」「貴重な体験だった」と、充実感にあふれた表情で感想を語っていました。



学園トピックス



大学・大学院 短期大学部

雨天でも予定通り開催 第7回白樺祭

第7回白樺祭が6月27日～29日の3日間にわたって開催されました。今年は最終日に雨が降ってしまいましたが、昨年同様、大勢の方に楽しんでいただくことができました。

今年のテーマは「つなぎ」。人と人が白樺祭でつながり、協力しながら盛り上げていこうという意味と、酪農のシンボルでもある作業着のつなぎをかけています。

初日から開店した模擬店は、昨年よりも店舗数が増えたため会場も広くなり、呼び込みの大きな声でにぎわいました。

2日目はきれいな青空が広が



り、野外特設ステージでは大音響のライブが行われ、歌と演奏で祭りを盛り上げました。

最終日の3日目、あいにくの雨にもかかわらず、予定通りすべてのイベントが中止せずに行われま



した。最大イベントのゲストライブには、タレントの原口あきまささんを迎えてトークショーを行いました。この時間になって一層、雨が強く降り出しましたが、屋外で傘を差しながらも、おなじみのものまねを楽しみました。

この日は昨年好評だった牛舎見学や搾乳体験も行われ、牛舎見学には約50名が参加。学生の一生懸命な説明に、参加者も積極的に質問をしていました。搾乳体験では、つなぎに着替え、始

めはこわばっていた表情も、無事に搾乳を終えると満足感にあふれた笑顔となりました。

祭りの最後を飾ったのは18チーム、総勢約800人によるYOSA KOROソーランです。熱い踊りで観客を魅了し、一日降り続けた雨もやみ、盛り上がりは最高潮に達しました。

実行委員長の高橋麻衣子さん(酪農学科3年)は、「ステージの企画も新しいものが増え、ゲストライブも好評でした。なかでも「ふれあい酪農パーク」は、大学らしさを出せたのではないかと思います。最終日になって雨が降ってしまいましたが、自分の中ではいい学園祭ができたと思います。」と話していました。

オープン キャンパス開催

第1回目は昨年に引き続き、6月28日(土)に大学祭(白樺祭)に



とわの森 三愛高等学校

カー口農学校との 姉妹校提携

2003年6月13日にデンマークのカー口農学校との姉妹校提携を行いました。クリスチャン・トムセン先生夫妻を本校にお招きして、礼拝堂に全校生徒が集う中で調印式を行いました。さらに調印の後、機農寮で酪農経営科生徒と共に昼食をとり、さらにトムセン校長先生から「デンマークの農業教育」と題して講演がありました。この秋に3年生はデンマークで酪農研修旅行でカー口農



学校にも訪問することになっており、生徒からも多くの質問がなされ、意義深い交流となりました。国際化を迎えていかに農業人(酪農人)として国際的感覚を養い、21世紀において、日本において、先導的な役割を担っていく人材を育成していくかという課題を考えると、この姉妹校提携は実に意義深いと言えます。これで本校は、「三愛精神」の故郷デンマークとは2校、アメリカのグレシャム市とは2校と姉妹校提携を結んだこととなります。

長崎ゆめ総体

ソフトボール部

顧問 矢端 信介

今年のチームは、昨年の全国選抜大会北海道予選会において、我がチームとしては実に4年ぶりという道内での敗戦を経験致しました。同じく昨年の全国高体連で決勝戦を戦ったメンバーのうち、半数以上の5名が残っている状況としてはどん底を味わった思いでした。そういった状況の中から、選手・監督共々まさに“ゼロからの出発”を合言葉に再出発を切りました。しかし、高いレベルの技術を要する選手と、その要求に応えようとしても技術が及ばない選手とで、知らず知らずのうちに不協

和音が生じ、チーム全体での統一した目標の共有化がいかに困難を極めるかを思い知らされました。その逆境を乗り越え、全国出場を達成した選手全員に感謝の気持ちでいっぱいです。私自身も、忘れかけていた“初志”また“初心”を取り戻すことができ、大変良い勉強となりました。最後に、ご声援とご協力をいただいた、たくさんの方々に感謝を申し上げます。

ありがとうございました。



合わせて実施されました。受験生は大学祭への参加も兼ねた形となり盛会に実施されました。第2回目は台風通過を目前にした8月8日、悪天候の中、黒澤記念講堂を主会場としてのオープンキャンパスが開催されました。

毎年、全国津々浦々から大勢の参加者があり、南は九州から前年より多い600名余の受験生、父母、高校教諭等が参加しました。

今年はプログラムを大幅に変更し、在学生の協力をいただいた内容となりました。当日は「学園フォーラム」と称したトークセッションを行い、各学部から代表の先生(酪農学部鮫島邦彦教授・獣医学部加藤清雄教授・環境シス



テム学部押谷一助教授)より建学の理念や各学部学科の紹介をしていただきました。その後入試説明会、学科別交流会・昼食(学食体験)をはさんで、体験授業・個別入試相談会・在学生相談会・キャンパスツアーが行われました。

2003年度の 父母懇談会無事終了

各会場とも晴天の下に、8月23日(土)の東京会場(渋谷)には83人の学生の父母121人が、8月24日(日)の大阪会場(新大阪)には66人の学生の父母98人が、8月30日(土)の本学会場には78人の学生の父母105人が出席されました。今年度も、昨年度と同様

に東京・大阪・本学の3会場で開催し、参加会場はご父母の自由選択といたしました。

昨年度は、全体会の後、学科別懇談会を開催しましたが、ご父母からのアンケート結果、学科別懇



談の時間を充実されたいとの希望が多かったこと、就職についての関心が高かったことに応えるべく、今年度は、全体会を行わず、2時間の学科別懇談会とし、学科における就職活動についての取り組みを中心に学生生活等を紹介することといたしました。

さらに、東京および大阪会場では就職および成績相談コーナーを、本学会場では就職部・教務部・学生部による相談コーナーを開設いたしました。また、本学会場での構内バス見学会(51人の父母が参加)、懇談会終了後の中

央館屋上(海拔90メートル)からの石狩平野展望にも好評をいただきました。

今回出席されました多くのご父母からのアンケート結果により、懇談会を通して大学教育・学生生活・就職活動等について身近に感じることができたとの感想が大半でした。いただきましたご意見等は今後の教育運営に役立てていきたいと考えております。あらためて、ご出席いただきましたご父母の皆さまに感謝申し上げます。

体操部女子団体報告

今年のインターハイまでの道のりは昨年よりはるかに険しいものでした。全道大会ではチームのエース佐藤が足の故障から復帰できず、レギュラー3人で苦しい戦いを強いられました。しかし函館大妻の追撃を辛くも振り切ったインターハイ出場権獲得は感激もひとしおで、チームの結束をより強いものにして、精神的に良い状態で全国入りすることができたように思います。

佐藤も復帰して迎えた予選では、全員が笑顔でのびのびと演技することができ、力を出し切ることができました。その結果、昨年からの目標であった予選を13位で通過することができ、本校として初めて全国の舞台で自由演技に臨むことができました。結果

は一つ順位を下げて14位での終了となりましたが、全国ベスト16という結果を残すことができたことは大きく、選手もサポートメンバーも多くの学びを得た大会だったと思います。

ご声援ありがとうございました。



ソフトテニス部

渡邊あゆみ

インターハイを通して素晴らしいなあと感じたことは、人との出会い、人とのふれあいでした。

いろいろな人に支えられながら私たちは長崎でのインターハイに臨みました。改めて自分一人で行っているのではないと実感しました。また、全国で活躍する選手の技術だけでなく、姿勢やチームの雰囲気を見て、触れて、私たちにとって大きな刺激となりました。大会の結果は3回戦敗退とあまりよいものではありませんでしたが、2度目の出場ということもあり、暑さに負けることもなく、インターハイという大舞台でプレーするという緊張感や楽しさを存分に味わうことができ、6年間組んだパートナーと共に出場できたことをとてもうれしく思います。スポーツを通して学ぶことはたくさんあります。そして、勝てば勝つほど得られることがあると思います。そんなことを実

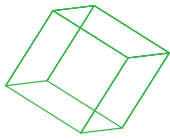
感じ、後輩にも実感してほしいと感じたインターハイでした。最後に支えていただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

琴部

琴部は、8月9・10日の2日間、福井県武生市で行われた全国総文祭・日本音楽部門に出場しました。北海道代表として、全国最少人数での参加でしたが、本番で緊張することなく、楽しみながら演奏できたことに満足しています。しかし、全国レベルは非常に高く、「入賞」というまでには至りません。

これから1・2年生が中心となりますが、各演奏会で“自分らしさ”の演奏ができるように日々練習を重ねていきたいと思っています。

入試情報



明確な理念と個性あふれる教育で、ま

2004年度

各人の特性と希望進路を重視した教育体制。
酪農学園グループ校ならではの推薦制度が進学の意欲に応える。

とわの森三愛高等学校



全科共学

- 普通科 ▶ 325名 (普通コース 245名 / 特進コース 80名)
- 酪農経営科 ▶ 40名

※英語科は2003年度より募集停止

恵まれた環境の中でのびのびと
制度を生かし多くの学生が大学

酪農学園大学短

● 酪農学科 ▶

勉学、クラブ・ボランティアなど、
すべてに積極的

各人の資質や個性を大切に、真の実力や人間性を豊かにする教育が基本。勉学はもちろん、クラブ、生徒会、ボランティアなど、すべての活動に積極的に取り組むことを奨励し、評価を得ています。各クラブは毎年、全道大会に出場し、全国大会へは女子ソフトボール部をはじめ体操、ソフトテニス、琴部など多数の部が出場し、大きな成果を上げています。近年は、吹奏楽クラブ、男子バレー・女子バドミントン・バトントワリング部の活躍がめざましい。

進学は高校生活の重要なテーマ。本校は、酪農学園大学、酪農学園大学短期大学部のグループ校として、この両大学の特別推薦入学制度があり、希望者には有利に進学が可能です。特に酪農経営科からは、ほとんどがこの制度で進学。今年度は全体で約50名が進学しています。また、キリスト教教育同盟加盟校として、全国のキリスト教系大学・短大への同盟校特別推薦制度があり、有効に生かされています。

大学・短大と直結した
指定校推薦制度(獣医四名含む
七四名)

入学試験会場は全国五つの都市

本学入学者の出身地は全国各地に及びます。そのため、道内・道外合わせて約六〇会場で入試相談会を実施し、意欲ある学生の希望に添えています。
さらに受験会場も、第一期学力入試では大学・短大部とも、本学をはじめ、盛岡、東京、大阪、福岡と全国五つの都市に会場を設けて実施(推薦、第二期学力入試は本学・東京・大阪)。地域的な負担を考慮し、受験しやすい体制を整えています。

【入試日程】高校

	科	出願期間(必着)	試験日	合格発表	試験地
推薦 単願	普通科	12/19(金)~1/16(金)	1/24(土)	1/30(金)	本校・東京
	酪農経営科				本校・東京 釧路・北見
一般 (学力)	普通科	1/26(月)~2/6(金)	2/17(火) 18(水)	2/25(水)	本校
	酪農経営科				

【入試日程】大学・短大部各学科共

	出願期間(必着)
推薦	11/4(火)~11/19(水)
I期(学力)	1/6(火)~1/22(木)
II期(学力)	2/16(月)~3/3(水)

◆入試・推薦制度等に関するお問い合わせは

酪農学園大学・酪農学園大学短期大学部/入試部入試課 ☎(011)388-4138 ☎0120-771-663
とわの森三愛高等学校/入試事務局 ☎(011)386-3111 ▶内線 5101

* 同窓生は卒業学校、学科(高等学校を含む)および卒業年度(期)を明記のうえ、請求してください。

入試要項を無料で送ります。

* 大学・短大部では同窓生子女推薦枠を設けています。受験希望の場合は入試課までお問い合わせください。

* I期(学力)試験日 ● 1/31…(大)農業経
● 2/1…(大)酪農、
* 全学部で大学入試センター試験を利用でき

すまます注目を集める酪農学園の3校。

入試案内

個性と実力を伸ばす。へ編入。

短期大学部
50名

酪農学部、獣医学部、環境システム学部の3学部体制ですまます高まる専門性。テーマは、食・生命・環境。

酪農学園大学

【酪農学部】
 ●酪農学科 ▶ 155名 ●農業経済学科 ▶ 110名
 ●食品科学科 (食品科学専攻) 50名 ●食品流通学科 ▶ 70名
 (健康栄養学専攻) 40名

 【獣医学部】 ●獣医学科 ▶ 120名

 【環境システム学部】
 ●経営環境学科 ▶ 140名 ●地域環境学科 ▶ 140名

本学ならではの専攻分野で、海外からの入学希望者も。世界が、時代が必要とする最先端の研究に取り組む。

- 大学院**
- 酪農学研究科酪農学専攻 (修士課程) ▶ 6名
 - フードシステム専攻 (修士課程) ▶ 6名
 - 食品栄養科学専攻 (修士課程) ▶ 6名
 - 食生産利用科学専攻 (博士課程) ▶ 2名
 - 食品栄養科学専攻 (博士課程) ▶ 2名
 - 獣医学研究科獣医学専攻 (博士課程) ▶ 3名

短期大学部
ますます増える編入学希望者

推薦入試では、「一般公募制推薦入試」と、「産業振興特別推薦入試」を実施します。これは短大酪農学部に関連の深い高校職業科の生徒を別枠で選抜する制度です。

短大酪農学科は農業または水産製造関係の学科を対象としています。また、本年度より大学入試センター試験を導入します。さらに専門性を深めたい、あるいは興味のある研究を続けたい学生は大学への編入学制度があります。



試験日	合格発表	試験地
11/30(日)	12/6(土)	本学・東京・大阪
1/31(土)*	2/12(木)	本学・盛岡
2/1(日)*		東京・大阪・福岡
3/14(日)	3/22(月)	本学・東京・大阪

済、食品科学(食品科学)、獣医、経営環境、(短)酪農食品科学(健康栄養学)、食品流通、地域環境

環境システム学部
テーマは「環境との調和・共生」

環境との調和・共生を目的に一九九八年に開設された本学部は、昨年度、第一期生が卒業しました。

推薦入試では、「一般公募制推薦入試」において、経営環境学科、地域環境学科ともに地域産業後継予定者に特別措置を実施しています。

獣医学部
「AO型自己推薦入試」・「学内特別選抜試験」を実施

「一般公募制推薦入試」に加え、獣医師を希望する生徒に対して、「AO型自己推薦入試」を実施しています。併願可能で書類選考(志望理由および自己推薦書(2000字)、面接、大学入試センター利用試験の三段階で選抜する制度です。また、第二期学力試験時に、在学生を対象とした学内特別選抜試験(学力試験および面接)を実施しています。



酪農学部
高校職業科を別枠で選抜、「産業振興特別推薦入試」を実施

「一般公募制推薦入試」に加え、「産業振興特別推薦入試」を実施しています。これは酪農学部に関連の深い高校職業科の生徒を別枠で選抜する制度です。酪農学科・農業経済学科は農業または水産製造関係、食品科学科食品科学専攻は食品製造または水産製造関係、食品科学科健康栄養学専攻は食品または栄養関係、食品流通学科は商業または農業関係の学科を対象としています。

さらに酪農学科・農業経済学科では農業後継予定者に特別措置を実施しています。

酪農学園70周年記念

学内記念式典・講演会

酪農学園創立70周年学内記念式典・講演会が9月30日、黒澤記念講堂において、たくさんの役職員・同窓生が参加して行われました。



記念式典は、榮忍宗教主任の司式により行われ、高橋一宗教主任の聖書朗読・祈祷、平尾和義理事長の式辞へと続きました。

その中で平尾理事長は「この70周年が過去の歩みを顧みだけでなく、次の時代に向けこれ

までの経験をどう生かすかを考える場とならなければならない。いつの時代にあっても現状を見極め、将来に向けて改革に取り組むことが重要である」とし、「教育・研究の質的充実を図り、個性が本当に光り輝く学園作りを目指して努力しなければならない」と述べました。



式典の後には70周年を記念して、短期大学第一期生・牧師の福島恒雄さんの講演会「北海道のキリスト教教育史と酪農学園の意義―創立者の理想と信仰に学ぶ―」が行われました。

演壇に立った福島さんは、参考資料を交えながら、キリスト教教育と酪農学園の発展について話され、創立者・黒澤西蔵については「困難に会えば会おうほどくじけない、強靱な信念を持った方だ」と述べました。

そして自らの学園での思い出を振り返り「酪農学園で学んだことは、私の人生を決定する大きなことであり、得がたい宝である。50年前は広い農場に校舎はなく機農高校の寮半分が教室で、30名に満たない学生が学んでいた。しかしそこには何か新鮮なものがあり、新しいものを作り出していく情熱と信仰があった。黒澤先生の

理想と信仰を受け継ぐ教職員の方々の並々ならぬ努力があり、また、同窓生の素晴らしい働きがあって、この大学を支えている」と力強く語りました。

最後に、ロマ書5章6節にある“希望は失望に終わる事はない”という言葉を紹介し、「学園がますます発展することを祈る」と述べました。

なお、この日は機農高校時代に使用されていたトラクター教室が展示されました。



記念式典・祝賀会

学校法人酪農学園は10月1日、札幌市の札幌ガーデンパレスで創立70周年記念式典を開き、全国から教育界および酪農界の来賓者など約300人が出席しました。

式典は午前11時から榮忍宗教主任の司式によって礼拝形式で行われ、オルガンによる荘厳な前奏と出席者全員による讃美歌の合唱で始まりました。高橋一宗教主任の聖書朗読、祈祷の後、平尾和義理事長が式辞を述べました。



この中で平尾理事長は「本学園はキリスト教による三愛精神で人間教育を行い、実学教育による健土健民の復元を標榜する創立者・黒澤西蔵先生の建学の精神に基づく教育を実践している。このことは、全国的にも例のない最も特色ある私学として各界から高い評価を得ている」と建学の精神の歴史をひもとくとともに「今日の学園はその志を引き継ぐ多くの先人たちの努力によって大切に育てられ、血と汗が蓄積した努力の賜である。私たちは先人たちの受け継いできたこの輝かしい伝統を継承、

発展させる義務がある」と建学の精神の継承を固く誓いました。さらに「私学を取り巻く環境は一層厳しい状況になっている。本学園がこれらの困難を乗り越

え、皆さまのご期待に応えるためには学園役職員、関係者が一丸となって学園教育の特色と独自性をさらに引き出す必要がある。未来の担い手である若者が21世紀の舞台で活躍できる教育研究の場として、これからも不断の努力をしていく決意である」と力強い口調で語りました。

この後、酪農学園に功労のあった12人に対して平尾理事長から感謝状を贈呈。引き続き、来賓として高橋はるみ北海道知

事（代読）、小川公人江別市長、日本私立大学協会北海道支部長の森本正夫氏（北海道私学団体連合会議長、学校法人北海学園理事長）から祝辞をいただき、厳かな雰囲気の中で記念式典は幕を閉じました。

なお、同日午後12時30分からは祝賀会が行われ、来賓者と本学園の役職員が和やかに歓談する姿が会場のあちこちで見かけられました。





決算報告

2002年度決算の概要

2002年度決算が去る5月28日開催の評議員会ならびに理事会でそれぞれ承認されました。その概要を説明致します。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財産状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

資金収支計算書 (概要)

収入の部

(単位：千円)

科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	6,371,391
手数料収入	176,995
寄付金収入	52,950
補助金収入	997,860
資産運用収入	7,498
資産売却収入	842
事業収入	506,238
雑収入	262,719
借入金等収入	46,100
前受金収入	1,188,174
その他の収入	1,183,496
資金収入調整勘定	△ 1,434,398
前年度繰越支払資金	3,779,527
収入の部合計	13,139,392

支出の部

(単位：千円)

科 目	決 算 額
人件費支出	3,869,250
教育研究経費支出	1,850,016
管理経費支出	605,144
借入金等利息支出	2,995
借入金等返済支出	140,650
施設関係支出	859,768
設備関係支出	322,845
資産運用支出	1,998,444
その他の支出	646,976
資金支出調整勘定	△ 381,091
次年度繰越支払資金	3,224,395
支出の部合計	13,139,392

消費収支計算書 (概要)

消費収入の部

(単位：千円)

科 目	決 算 額
学生生徒等納付金	6,371,391
手数料	176,995
寄付金	63,488
補助金	997,860
資産運用収入	7,498
資産売却差額	842
事業収入	506,238
雑収入	313,050
帰属収入合計	8,437,362
基本金組入額合計	△ 1,069,502
消費収入の部合計	7,367,860

消費支出の部

(単位：千円)

科 目	決 算 額
人件費	3,851,014
教育研究経費	2,688,409
管理経費	635,955
借入金等利息	2,995
資産処分差額	102,123
徴収不能額	1,719
消費支出の部合計	7,282,215
当年度消費収入超過額	85,645
前年度繰越消費収入超過額	605,195
翌年度繰越消費収入超過額	690,840

貸借対照表 (概要)

資産の部

(単位：千円)

科 目	2002年度末
固定資産	26,862,044
有形固定資産	15,442,590
その他の固定資産	11,419,454
流動資産	3,557,997
資産の部合計	30,420,041

負債の部

(単位：千円)

科 目	2002年度末
固定負債	2,309,091
流動負債	1,799,500
負債の部合計	4,108,591

基本金及び消費収支差額の部

(単位：千円)

科 目	2002年度末
基本金	25,620,610
消費収支差額	690,840
負債、基本金、消費収支差額の部合計	30,420,041

活躍する同窓生 Vol.7



自分が食べたいと思うものを消費者へ

第62回 中日農業賞 優秀賞受賞

豊田畜産 豊田 春樹さん

とわの森三愛高校 酪農経営科 1993年卒業
 大学 酪農学部 食品科学科 1997年卒業

今回は、第62回中日農業賞優秀賞を受賞された三重県亀山市の豊田春樹さんを訪ねました。

豊田さんは、現在、肥育牛（ホルスタイン去勢と交雑種）合わせて950～1000頭を飼育。また、堆肥を袋詰にして販売、貸農園の「ゆたか農園」や「ふれあい牧場」を市民に無料で開放するなど、さまざまな取り組みをされています。

一般住宅に隣接する清潔な手作りの牛舎には、数百頭もの牛たちが、癒し系の音楽が流れる中、においも、騒音も、ハエもいない環境でなんとものどかな顔でくつろいでいました。

Q.受賞おめでとうございます。ところで、これだけ多くの牛がいるのに、その気配も感じさせないほどの雰囲気、牛たちの清潔さ、そして人懐っこさ、北海道の牧場で草をはんでいる牛たちと同様の、牛独特ののどかさを醸し出しているのはなぜでしょうか？

A.牛の目を見てください。丸いでしょ。ストレスのない時、目は丸いのです。でも仲間と折り合いが悪い、餌が充分でないなどのストレスがあると目がつりあがるんですよ。牛たちにはストレスのない状態で、気持ち良く過ごしてもらおう。それが良い品質の肉の生産につながると思っています。僕たち家族は、牛に食べさせてもらっているわけですから、何よりも牛が一番でなければならぬ。そう子供にも教えています。

それから、ここは住宅地が近いので、におい、ハエ、騒音などで迷惑をかけないように気をつけていて、

人と動物が共存していけるようさまざまな取り組みをしています。

Q.ゆたか農園やふれあい牧場もその取り組みの一環ですか？

A.そうなんです。僕は、幼いころから身近に動物がいたし、動物が好きだったから、牛飼いをやれたと思うんです。だから、市民の皆さんにも、身近に動物を見てもらい、なれてもらうことが共存していく上で大事だと考えたんです。

現在、ふれあい牧場には、ヤギ5頭、羊1頭、ポニー3頭、ロバ1頭がいて、毎月幼稚園や小学校の子供たちが遊びに来てくれます。

ゆたか農園は、1区画5坪で、約50区画あるのですが、応募者多数のため、キャンセル待ちしていただいています。この農園での特典として、無料で水と堆肥が使い放題なのですが、堆肥をどんどん入れたら、農園の土が元気になり、とても良い畑になったので、堆肥の良さがPRされ、袋詰の堆肥も

市民の方々からの好評を得ることにつながっています。

Q.97年から堆肥を袋詰にして販売していると聞きましたが。

A.約35年前に父がホルスタイン去勢牛の肥育を始めて、年々規模を拡大してきたのですが、牛が増えれば、そのふん尿も増えます。そのうえ、先ほども触れたように、これでは周りの方々に迷惑をかけてしまいます。そこで、自宅のある亀山とは別にある鈴鹿の牧場に堆肥舎を造り、ここで袋詰までの工程を行い、亀山の農場で販売をしています。



Q.牛の餌はどうしているのですか？

A.粗飼料は稲わらを、配合飼料は自家配合ではなく、メーカーに直接オリジナル配合を指定して配合してもらっています。

Q.独自の個体管理を行っていると聞きましたか。

A.はい。僕のところでは、子牛を買ってきて、大きく育ててから市場に出すのですが、誰から買って、何を食べさせて育てたかを責任を持って把握できるように、日本でのBSE騒ぎの前から、データを残しています。

自分が食べたいと思うものを市場に出し、皆さんに食べてもらう。当たり前なことなんですけどね。年に2回の収穫祭での直売では、牛の顔写真入りのデータを添付して好評を得ました。



Q.酪農学園への進学を決めました？

A.僕が中学生の時、現在三重県で御浜ファームを経営している尾崎光広さん(85年短大卒)が、高校、短大と酪農学園で過ごし、卒業後三重に戻って家業を継いでいたのですが、彼に酪農学園のことをいろいろ聞いて、ぜひ僕も北海道へ行こうと進学を決めました。

Q.学園での思い出や、在学中に得たものなどを教えてください。

A.高校では多くのことを学びました。寮生活ではけんかもしたけど、皆共通の目標(実家に帰って牛飼いをする)があったので、次第に連帯感が生まれ、打ち解けることができました。今でも和める関係です。

大学では、高校とは違ういろんな年代、いろんな価値観、いろんな国の人々と出会うことができ、今まで知らなかった多くのことを学ぶことができたと思います。

Q.最後に在学生にメッセージを

A.学校で学んだことと社会で学ぶことはギャップがあり、すぐには使えないけれど、思わぬ時に使えることがある。それから、人の話を聞くだけでなく、自分で目標を立てて物事を進めていくことが大事だと思います。



プロフィール
 昭和50年3月24日生 28歳
 三重県亀山市出身
 妻と2歳の娘、両親、妹、祖母の4世代家族。
 趣味は、子供と遊ぶこと。

人と動物が共存し、共に豊かな心で過ごす光景を見たような気がしました。



同窓会だより

◆◆ 酪農学園短期大学 10期卒同窓会 ◆◆

短期大学10期卒業による同窓会が、9月30日酪農学園70周年記念行事を機会に、札幌市において松井幸夫、原田勇両先生を招き同期会を開催致しました。両先生にごあいさつをいただいたあと会員相互の交流等を行うなど、酪農学園の36年の当時を回顧し、学園の今後の発展を期待しながら有意義に終了する事ができました。

◆◆ 関東1都6県の 全高校卒同窓会 ◆◆

高校卒業全関東同窓会「機農会、三愛会、とわの森三愛高校卒同窓会」が、昨年に続き8月30日にアルカディア市ヶ谷(私学会館)において、柴橋伴夫教頭、有好潤二先生と1都6県の高校卒同窓生が集い、交流会と学習会を開催致しました。交流会に先立ち柴橋教頭より「とわの森三愛高校の現況」等について報告とあいさつをいただき、続いて学習会と交流懇談等、建設的な交流として有意義に終了する事ができました。



◆◆ とわの森三愛高校 (旧三愛女子高校) 20期卒同窓会 ◆◆

旧三愛女子高校20期卒による同窓会が6月14日、札幌第一ワシントンホテルにおいて開催し、山崎恵子三愛会会長、加福幸枝実行委員長の同窓会よりのあい

さつを始め、学校当局より村山昭二校長および現旧教職員の先生方の出席と、校長よりあいさつをいただいたあと学習交流会が行われました。交流会の中で出席の先生方よりあいさつをいただくなど、先生との交流、懇談を深めるなど有意義な同窓会として終了する事ができました。



◆◆ 群馬県支部同窓会 ◆◆

同県支部同窓会の総会とシンポジウムを、9月6日、北軽井沢、仙人亭において開催し、同窓会連合会高橋節郎会長、大谷俊昭大学学長、金子正美助教授、奥野誠関東同窓会長、須田利明東京事務所長が出席致しました。シンポジウムとして金子先生より「J I Sについて」をテーマに基調講演が行われました。また、総会では大谷学長および高橋会長より夫々酪農学園の状況および同窓会の活動状況についてあいさつを行い、学園に対する理解と協力を求めるなど、活発な意見の交流が行われ有意義に終了する事ができました。

総会における改選では、須田哲生支部長が退任し新支部長に村田文男氏、副支部長に大津初司、三田孝幸、矢内恒雄の三氏が選任されました。



◆◆ とわの森三愛高校 学校祭の開催 ◆◆

同高校が行っている学校祭が昨年まで7月開催時期を、今年度は9月開催となり18日より20日までの3日間開催され、テーマを「開拓」としサブテーマを「新たな道を歩きだす」と決めました。最後の20日は一般公開日として同窓会がバザーを出店し好評を得るなど、多くの方に来校いただき盛会のうちに学校祭を終了する事ができました。

◆◆ 獣医学部の 学科・支部同窓会 ◆◆

獣医学科同窓会として、伝染病学教室同窓会が5月24日に、定山溪において開催し本学の菊池直哉教授が出席し「伝染病学20年の歩みと今後」と題しての講座と、会員との学習交流会を

開催致しました。

支部同窓会では、6月24日に同学科釧路支部同窓会が釧路市において、本学の小岩政照教授が出席し「これからの大学教育の目指すもの」として学習交流会が行われました。

同学科7期卒による30周年記念同窓会が、9月20日に本学に集合し同学部1号館において、講師の先生の出席を得て講演、講座等の学習会および交換会を行い、宿泊場所のホテルにおいて意見の交流交換会を行いました。



◆◆ これから開催される同窓会のお知らせ ◆◆

○ 農業経済学科20期卒同窓会開催のお知らせ

同学科20期同期卒の同窓会を次の日程で開催致します。同期の多くの方が出席参加いただくようお待ちしております。

開催日時: 2003年11月15日(土) 午後6時より

開催場所: ジャスマックプラザホテル 011-551-3333

札幌市中央区南7条西3丁目

会費: 1人当たり 7,000円

*お問い合わせ等は、学園総務課加藤までご連絡ください。

TEL 011-388-4111

関係の先生方の出席を予定しております。

お知らせとお願い

*同窓会連合会のホームページを同窓会の活動にご活用ください。

HPアドレス: <http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>

*住所を変更された同窓生の方は、下記のいずれかの方法で同窓会事務局までご連絡ください。

電話番号 011-386-1196 / *FAX011-386-5987 / *手紙 またはハガキ

Eメール rg-dosok@rakuno.ac.jp

〒069-8501 江別市文京台緑町582・酪農学園同窓会連合会事務局

白樺並木

貴農同志会だより

酪農学園
貴農同志会
の第10回
記念総会が
平成15年
7月4日に
酪農学園中
央館ホールで55名の会員が参加
し開催されました。



第一部の総会では、原田勇会長より、平成5年の酪農学園創立60周年に同じくして設立して以来、10年の歩みについてお話がありました。最後にこの10周年記念事業にご協力いただいた会員の方々へお礼が述べられました。その後、平尾和義理事長、町村末吉後援会会長からお祝いの言葉があり、柴潤子さんよりこれまで亡くなられた会員に対し追悼祈禱が行われました。また、水戸に在住の山下正亮前会長の心温まる祝電が読まれました。

総会議事では、予算・決算・事

業計画などが審議され、役員改選に伴う新役員の選任が承認されました。

第二部では、記念講演として黒澤力太郎学園長より、「酪農学園と歩みを共にして」と題した講演が行われ、多数の会員教職員が出席されました。講演内容は、後日発行される同志会10周年記念誌に掲載される予定です。

講演会終了後、場所を移し学園本館で、昼食懇親会を開催しました。高橋節郎副理事長(連合同窓会会長)よりお祝いの言葉があり、学園の各部局長各学部長高校教頭を交え、各校の現状や会員の近況などがスピーチされました。学園の過去を振り返り、また学園発展を喜び合い和やかなうちに懇談の時間が過ぎました。

会員には、記念の紅白饅頭が配られ、参加者には学園より入試課で作成した写真集が配布されました。

見学会では、澤田憲宏事務局長の案内で、発展を続ける学園を酪農学園大学中央館屋上より見学しました。また、今年完成し

た、精農寮に隣接する近代設備の研修館を見学し、時代に合わせた学園施設発展に目を見張り、最後に野喜一郎先生の記念碑の前で解散しました。

現在貴農同志会会員は1,287名で、うち住所が確認できている会員は528名となっています。今年中に記念誌編集委員が設立10周年記念誌「貴農」を作成、住所の判明している会員へお送りする予定をしています。

スポットニュース

園児と一緒に トウキビの収穫

とわの森三愛高校の生徒と、のっぽろ幼稚園の子供たちによるトウキビの収穫が9月4日、校内の畑で行われました。

「なかよしふぁーむ」と題して行われており、参加したのは同園年長組80人と酪農経営科1年の39人。このトウキビは、5月に園児と一緒に植え、毎月草取りなどの手入れも一緒に行っていました。

収穫したトウキビは一つ一つ皮をむき、園児からは「おいしそう、早く食べたい」などという声も上がり、楽しいひとときを過ごしました。



台風10号被害 日高に飼料の支援

本学附属農場は9月16日、8月上旬に発生した台風10号により甚大な被害を受けた、日高管内の酪農・畜産農家に飼料の支援を行いました。

支援粗飼料はロールラップサイレージでJA門別町に15個、JAにいかっぷに10個を輸送しました。



人の動き

2003年7月28日発令
[退職・退任] 酪農学園大学
死亡退職 小谷 忠生(教授)

2003年9月1日発令
[新規採用] 酪農学園大学
獣医 岩野 英知(講師)

2003年9月30日発令
[退職・退任] 酪農学園大学
依頼退職 岡田 洋之(助教授)

2003年10月1日発令
[新規採用] 酪農学園大学
獣医 岡本 実(助手)

訃報

本学園に多大なご尽力を賜りました小谷忠生先生(59)が7月28日、ご逝去されました。学園役職員一同、ご家族の上に慰めと平安がありますようお祈り致します。

先生は、創立して間もない、本学獣医学部の教員として赴任されて以来、35年にわたり教育研究を通じて、大学ならびに獣医学部の発展に尽力されてきました。

わが国獣医眼科学のバイオニアとして、卓越した診療技術を身につけていただけでなく、多くの後進を育てるという大きな仕事もされてきました。

ここに、改めて衷心より深く感謝申し上げます。

編集後記

70周年を迎えた酪農学園大学では、現在新しく附属動物病院を建設しています。これは現病院が老朽化し、その一方で診療頭数が年々増加していることによるもので、国内獣医科大学では最大規模となり、国際レベルを目標にした診療・教育・研究の充実を目指して来年4月の完成を予定しています。

開学当初からの建物がいくつか残るキャンパスに、中央講義棟や研修館、そして病院と新しいものが加わり、酪農学園は70年という歴史を振り返ると同時に、未来を見据えて走り続けています。これを繰り返すことによってまた、学園の歴史や伝統を築き上げていくのだと感じました。(O)

酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol.99
発行：学校法人 酪農学園 2003.10.15

酪農学園大学/大学院/酪農学園大学短期大学部
とわの森三愛高等学校

編集：学園広報室

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582
TEL (011) 388-4158 FAX (011) 388-4157
HPアドレス：http://www.rakuno.ac.jp/
E-mail: koho@rakuno.ac.jp